

調査研究事業【平成22年度継続事業】

(1) 奨励研究(6件)

	研究者	研究題目・目的	基金助成額
1	東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 教授 大竹 二雄	題目：三陸沿岸におけるアユの初期生活史の解明 目的：三陸沿岸域のアユを対象として、仔魚の流下から遡上に至るまでの海域における分布・成長・回遊などの生活史を明らかにし、河川遡上個体群の構造とその形成機構を解明することで三陸地域のアユ資源の増加や保全の確立に資する生物学的知見を提供する。	300,000
2	東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 教授 大竹 二雄	題目：耳石微量元素組成を指標としたニシンの集団構造の解明 目的：ニシンの個体の仔稚魚期に相当する耳石の微量元素組成の違いから、各個体群内における出生地の異なりや交流割合を解明し、資源状態や集団構造を把握する。	300,000
3	北里大学海洋生命科学部 講師 天野 春菜	題目：低塩分海水での飼育による安定的なニシン種苗生産技術の開発 目的：安定的なニシン種苗生産技術を開発することを目的として、成長および環境適応に密接に関与する成長ホルモンおよびインスリン様成長因子の遺伝子をクローニングする。	300,000
4	岩手大学農学部 准教授 平野 紀夫	題目：カキのノロウイルス汚染リスク評価に関する基礎的研究 目的：生食用カキについて、ノロウイルスによる汚染を原因とする食中毒を未然に防止し、安全なカキの安定生産に資するため、培養手法が確立されていないノロウイルスの不活化評価手法を開発する。	300,000
5	東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 教授 大竹 二雄	題目：マガキ貝殻中の微量元素組成の地理的差異～三陸産マガキの判別手法の確立～ 目的：三陸沿岸において、マガキは重要な水産資源の1つである。マガキの産地偽造を防ぎ安心・安全な食品の安定供給をするためには、正確かつ、迅速で簡便な産地判別法を確立する必要がある。本研究では、不可食部である貝殻中の微量元素組成を指標としたマガキの産地判別の有効性の検討を目的とした。	270,000
6	東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 准教授 佐藤 克文	題目：宮古湾におけるカワウ・ウミウの生息状況及び漁業被害の実態把握調査 目的：宮古湾とその周辺に生息する2種類の鶺鴒について、生息個体数、採餌域、繁殖地など明らかにし、それらが湾内において、どのような水産資源を利用しているのかを明らかにする。	300,000
基金助成額計：1,770,000円			